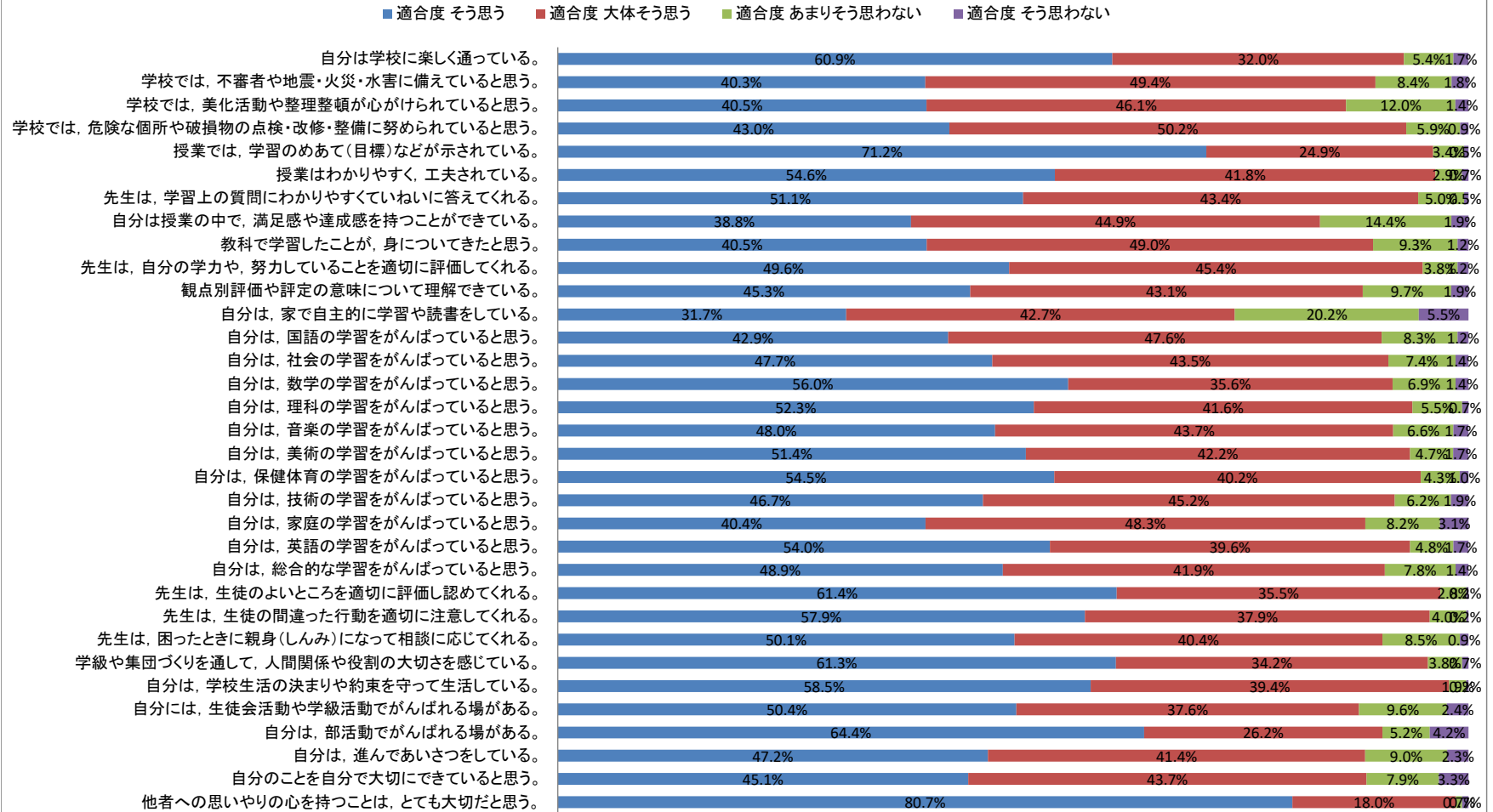


令和２年度 後期学校評価 全校生徒



後期アンケート結果は、概ね前期同様の結果となっているが、前期結果と比べ、適合度「そう思う」が少々下降し「だいたいそう思う」が上昇している。双方を合わせた「+」評価は、概ね同じであった。

- ・授業については安定して比較的数字が良くなっている。一方で「家で自主的に学習や読書をしている」は、なかなか数字が上がらない。大幅な向上は難しいが、継続的な課題としたい。
- ・「観点別評価や評定の意味について理解できている」の値が低下している、コロナ禍で、教育課程の説明や総合的な学習などについて、時間を十分割けなかったことが影響していると考えられる。
- ・「確かな学力」の育成に向けての「学力向上プラン」については、来年度も継続して、確プロや定期テストなどの予習復習については、学年を中心として強く働きかけていくとともに「GIGA端末を活用した学習」を教職員一丸となって取り組んでいきたい。
- ・数年来、道徳については、1時間1時間の授業は勿論、評価を意識して取り組んでいる。また、「生徒の良いところへの評価」については、100%ができていると考えていて、生徒の満足度が高い。
- ・「豊かな心」の育成に向けての各項目は、ここ数年、大きな変動はない。ただ、今年度はコロナの影響が少なからずあったことと、困っている生徒に対し、教員が更に注視しながら取り組みを進めていたことが伺える。来年度に向けて自己肯定感を涵養できるような取組を継続して取り組んでいきたい。また、今年度コロナの影響で縮小した「集団のよさを生かした学級づくりや生徒会活動、行事、部活動など」を来年度は積極的に設定し、豊かな感性・情操を育む教育を充実させてきたい。